
青い春

愛原 恵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青い春

【Nコード】

N8646A

【作者名】

愛原 恵

【あらすじ】

暗かった中学時代を卒業し、高校生になる中川楓。 15歳！

プロローグ（前書き）

実在の人物ではありません。また、同姓同名の方がいらっしゃいましたら、お詫び申し上げます。

プロローグ

暗かった中学生生活を終え、この春中川楓は高校生になる。高校生活は、明るくするぞ！と意気込みをみせ、春の日差しの中、風をきって学校までの道のりを歩いていく。

楓は中学時代、本当の友達がいなかった。

というより、人とどう接したらいいのかが分からずにいた。

人と仲良くしたい気持ちはあったが、何を話せばいいかわからないし、自分がホントはどんな人間なのかもわからなかった。

でも、なんでも人に合わせられることはできたため、いつしよにいる人はいた。しかし、やはりただいつしよにいて、作り笑いをしてばかりいた。誰かといても、孤独は消せなかった。楓はよく、私にホントに合う人はどんな人で、ホントの私はどんな人なんだろう。

素の自分っていうのは、何だろう。と思っていた。孤独で辛く、疲れた楓の三年間は終わった。

もちろん恋人もできずじまいだ。

家に帰ると

明るい家族だったこともあり、比較的口数も多く、お喋りな楓でも外では、違う自分だった。そのため、家での自分がホントだろうと思うが、なかなか外でそのキャラを出せずじまいだった。

「おはよう」

楓はフッと後ろを振り返ると、そこには今年中学

三年生になる、妹の椿がいた。

「おはよう」

楓は答えた。妹の椿は明るく前向き、それでいてかわいいため、みんなに好かれ、姉である楓もそんな妹に憧れ、かつ尊敬していた。普通は逆なのだが、性格がマイナス思考ネガティブな楓にとって、自分と違う椿の存在はなりたいた姿だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8646a/>

青い春

2010年12月18日14時46分発行